2025 年 10 月

久野営農経済センターだより



<注意>「収穫〇日前」: 定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布が可能。(前日は24時間前) 「回数」: 農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認する。

▲店舗により農薬在庫状況が異なるので、農薬購入の際は事前に在庫確認をすると円滑に購入ができます。▲

---【温州みかん】*下線が引いてあるものは重要防除なので、必ず防除を行う。-

病害虫防除

9月下旬~10月中旬

〇カメムシ類 スタークル顆粒水溶剤 2,000 倍 50g/水 100 次 収穫前日 3 回

又はロディー乳剤(劇) 2,000 倍 50ml/水 100 版 収穫 7 日前 4 回

10月下旬~11月上旬

〇ハダニ類・サビダニ類 オマイト水和剤 750倍 133g/水100次 収穫7日前2回

11 月中旬

〇貯蔵病害 ベルクートフロアブル 2,000 倍 50ml/水 100 次 収穫前日 3回

(青かび病、緑かび病) <u>トップジンM水和剤 2,000倍 50g/水100 流 収穫前日 5回</u>

※昨年まで使用してきたベフトップジンフロアブル(ベフラン+トップジン M)は、2025 年 10 月に農薬登録が失効します。11 月以降は在庫のベフトップジンフロアブルも有効期限が切れているため使用できません。

※秋に発生したミカンハダニは果実に移動し着色不良の原因となるので散布ムラのないように防除を行う。

浮皮軽減 蛍尻期

○フィガロン乳剤 3,000 倍 33ml/水 100 ¼ 収穫 7 日前まで 2 回 散布量 300 ¼/10 a 1 回目 蛍尻期に散布 2 回目 蛍尻期の 2 週間後

*7~8月にフィガロン乳剤を散布している園や、樹勢が低下している樹には散布を控える。

摘 果

大津・青島は大玉になりやすいので、収穫に向けてそれぞれの樹の着果量に応じ、不良果実を摘果する。 (スソ、フトコロの果実から実施し、上部の天なりの大玉は最後に摘果する)

──【中晩柑】──

病害虫防除

基本防除は上記みかんの項を参照して下さい。

施肥 10月下旬

〇秋肥 特選みかん配合 655 100 kg/10a (果実内容の向上・樹勢回復のため)

* 中晩柑の防除における農薬の使用日数・使用回数には十分に注意する。

----【レモン】*下線が引いてあるものは重要防除なので、必ず防除を行う。------

10月下旬~11月上旬

Oハダニ類オマイト水和剤750倍133g/水 100 次収穫 1 4日前2回サビダニ類

施肥 10月下旬

〇秋肥 特選みかん配合 655 100 kg/10a (果実内容の向上・樹勢回復のため)

(うめ)

施肥

〇土壌改良 10月上中旬 苦土石灰

〇秋肥施用 10月中下旬 梅配合 120kg/10a

病害虫防除 10月上旬~11月上旬

2週間間隔で2回

○かいよう病 多発園ではIC ボルドー66D 50 倍 2kg/100 次 葉芽発芽前まで

※カイガラムシ防除のためアタックオイルを散布する際は、IC ボルドーと混用せず、散布間隔を2週間以上空けてください。

─【キウイフルーツ】──

病害虫防除 10月上旬

果実軟腐病

貯蔵病害 ロブラール水和剤 1,500倍 66g/100 流 収穫前日 4回

施肥

樹勢回復のために9月に分肥した残りのキウイフルーツ配合40kg/10aを10月中旬に施肥する。9月の施肥を行っていない場合はキウイフルーツ配合100kg/10aを10月中旬に施肥する。

―【お 茶】―

秋整枝 │ 10月上中旬(平均気温で 18℃程度になる時期)

一番茶のために、摘採面を揃える。(葉層は 8cm 以上) 再萌芽の防止や寒害の影響をうけないように、 時期をはずさないようにする。

(整枝位置の目安) 一番茶のみ摘採の場合: 夏整枝位置の5㎝上。

二番茶を摘採した場合:二番茶摘採位置もしくは二番茶整枝の5cm上。

敷き藁 秋整枝以降

冬季の根に対する乾燥と寒害の防止のため敷き藁をする。

病害虫防除 | 秋整枝後 11月

○カンザワハダニ アタックオイル 100 倍 1 次/水 100 次 チャトゲコナジラミ

(晴れた日を選んで防除すると効果的です。)

——【水 稲】-

スクミリンゴガイ対策

今年度も発生拡大を阻止するため、水田では収穫後必ず<mark>耕耘(速度はゆっくり、ロータリー回転は速く)</mark>を行い、貝を傷つけ越冬させないようにする。また、水路や排水溝なども越冬場所となるので、捕殺、清掃を必ず行う。 (※捕獲した貝は道路等には捨てないようにする。)

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。